

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4571500471		
法人名	有限会社 アドバンス工業		
事業所名	グループホーム あげぼの苑	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県宮崎市田野町あげぼの2丁目32-1		
自己評価作成日	平成25年1月7日	評価結果市町村受理日	平成25年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvCd=4571500471-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvCd=4571500471-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年1月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

年3回の大きな行事(花見、夕涼み会、紅葉狩り)を含め、月1回のふるさと訪問(ドライブ)など、外出支援を行っている。また、体力維持、利用者同士のコミュニケーションを図る為、レクリエーションやリハビリ体操など取り入れている。  
個々の残存能力を生かせるように、料理の手伝い(盛り付け、野菜の下ごしらえ、トレー拭き等)や洗濯物(干し、畳み)などの生活リハの充実を目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

地域には、まだ自治会ができていないが、行事のお知らせを近隣に行い、年1回行う「夕涼み会」では、近所の方の参加も多い。また、ホームの非常時に応援をしてもらうため、戸別に訪問し、ホームを説明、協力支援をお願いするなど、地域との連携を図る取組に力を入れている。チームケアの基本である、職員間の人間関係が非常に良好に築かれており、働きやすい職場づくりがなされている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念作りに努め、全職員が共有し、充実した支援が出来るように取り組んでいる。		ホーム全体の基本理念のほかに、A棟、B棟それぞれに運営理念と介護理念を定め、採用時に説明している。また、勤務開始後も随時、職員に管理者が理念の実践を指導し、理念に基づいた支援ができるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・ボランティアの方々や見学者の受け入れも積極的に行っている。 ・年1回の「夕涼み会」では、地域住民への参加を呼び掛け、利用者の方々とは交流して頂くように努めている。		調査当日も、紙芝居のボランティアが来られるなど、積極的にボランティアの受け入れを行っている。また、年間行事の「夕涼み会」では、地域の方々の参加も多く、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が各地区へ出向き、事業所の内容や認知症への理解を深めてもらえるよう、努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月に1回実施し、内容を必ず合同カンファレンスで全職員に報告し、そこでの意見が反映できるように努力している。 ・外部評価も発信している。		2か月に1回定期で開催し、活動報告、意見交換を行っている。地域包括支援センター、民生委員、家族の参加が見られ、運営に生かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営者は、常々、本庁や総合支所に出向き、相談等を行い、連携を取っている。 ・管理者は、日常業務に従事している為、時間的に難しく、できない。		町内で最初にできたグループホームであり、行政との関係も良好に築かれている。特に不明な点があった場合は、事務長が市町村担当者に相談・連絡を気軽に行える関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・全職員が理解しており、事あるごとに鍵をかけなくて済む工夫を話し合っているが、玄関の開放は終日というわけにはいかず、レクリエーションの間だけという限られた時間となる。		日中、玄関の施錠はしていないが、A棟、B棟から玄関フロアに出る扉があり、B棟では徘徊が多い利用者に対応し、この扉を時間制限して開放している。A棟のこの扉は、日中施錠していない。	玄関フロアの見守りに工夫をして、時間制限せずにできるように期待したい。また、身体拘束・虐待については、研修の機会を増やし、きちんと把握・理解できるような取組に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに話し合いを持ち、苑内にて虐待が見過ごされる事が無いよう、職員各々が十分に注意を払い、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに話し合い、また、入居時に必ずご家族に対して、説明や情報の提供を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時、十分な説明を行い、理解して頂いている。・不安な事、疑問点などを確認しそれに対して理解、納得して頂くよう努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・具体的な「家族の会」は無いが、面会時や担当者会議を利用して、本人やご家族の要望、意見を引き出す努力をしている。		家族の会の設置については、以前から努力しているが、家族の都合もあり、困難な状態である。個別には来訪時に意見を聞き、ケアの改善に努めている。	家族の意見を更に引き出すよう、引き続き、少人数の家族からでも、家族の会の開催が行われることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の合同カンファレンス、また、機会あるごとに職員の意見や提案を聞き、それを反映できるように努力している。		月1回の合同カンファレンス(職員会議)や個別に意見を引き出すよう努めている。特に、行事の内容について積極的に意見を求め、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、月1回の合同カンファレンスにも参加し、研修報告も聞いている。社会保険労務士にも入ってもらい、勤務時間、給与水準もみていただいている。また、介護福祉士を受けられる職員には、交通費(5千円支給)など考慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には、交代で参加していただいたり、興味を持った勉強会には積極的に参加していただいている。また、カンファレンス時には、研修報告の場を設け、全職員に介護力の向上を促している。25年度からは、外部講師による講演、講習を行う計画を立てている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターの計らいで、他事業所相互訪問や意見交換等の場を設けてもっている。グループホーム連絡協議会にも管理者や職員に参加して頂き、質の向上を目指している。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前にも、ご本人の状況に応じ、自宅又は入院先の病院迄面談に行き、不安な事、要望等に耳を傾け、入居後の生活を安心して送って頂けるように対応している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前の面談を含め、入居後の面会や定期的な担当者会議で、不安や要望を引き出せるような声かけを行い、安心して頂けるような説明、対応に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアマネージャーが積極的に窓口となって家族の意見や要望を聞き、担当者、管理者と情報を共有して、必要としている支援を見極め、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員と利用者といった壁を作らず、時には子供となり、姉妹といった関係作りに努め喜怒哀楽を共にする事で、互いに支え合う関係を築けるよう努力している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、必ずご本人の体調の変化や日々の様子を伝え、安心と絆を維持できるよう支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人への声かけを、機会あるごとに行っている。ドライブや近所の店への買い物などを行い、関係が途切れないような支援に努めている。 ・ご家族の面会も多く見られる。		なじみの関係が途切れないように、自宅の近所へドライブに行ったり、家族の協力の下、なじみの美容室を利用するなどの取組をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時には職員が間に入って声掛けをし、一人ひとりの意見を尊重しつつ、他利用者との関わり合いのきっかけを作れるよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係を必要とされる方や家族に対しては、出来る限り支援するように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、対話する事の中から希望、意向を聞き取っている。		日々の表情や行動、発語に注意し、把握するとともに、アセスメント以外にも、「認知症の人のためのケアマネジメント・センター方式」の一部シートを活用するなどの取組をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人だけでなく、ご家族や面会に見えた友人、知人の方からも情報を頂けるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りに基づき、連携を取りながら、一人ひとりの状態を細かく把握できるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に一度、家族・担当者・管理者及び看護師・ケアマネでサービス担当者会議を行い、利用者本位の介護計画を作成している。また、毎月担当者とモニタリングを行い、状態把握に努めている。		3か月を短期目標の期間と定め、担当者会議を開催し、細かく介護計画を作成している。毎月、担当職員がモニタリングを実施し、介護計画への反映も行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた援助の記録を行い、体調変化(脚力の低下)等、情報を共有し、頻度の変更やプランの見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に大きな問題はない。認知症の方は帰宅願望が強いが、その時その時の対応の方法で落ち着かれている為、今のところは既存のサービスでよいと思う。			

宮崎県宮崎市田野町 グループホームあけぼの苑（A棟）

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・月1回の紙芝居のボランティア ・年1回の保育園児の慰問 ・2カ月に一度の散髪のボランティア ・個別では、日用品を近所の店に買い出しに行ったり、行きつけの床屋に散髪に行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人、ご家族の希望を重視し、納得が得られたそれぞれのかかりつけ医での受診ができています。・かかりつけ医と事業所との関係は良く、気軽に相談出来ている。	本人、家族の希望の掛かりつけ医を尊重し、受診の支援を行っている。各掛かりつけ医と情報の交換も行っており、良好な関係が築かれている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の情報を申し送り等で共有し、異常や変化を見逃さないよう注意して、発見した時には速やかに看護職に伝え、相談している。 ・定期受診に際しても、日々のちょっとした変化等を必ず伝え、相談している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・協力医療機関やかかりつけ医との連絡を密にし、面会に行き、利用者やご家族との関係を維持できるよう努力している。 ・常日頃から、協力医療機関との関係は良い状態を保てる努力をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に、急変や終末期については、苑の方針を説明、現時点での苑の体制も説明し、理解を得ている。 ・入所案内にも記載している。	重要事項説明書に、看取りについての基本方針が3項目定められており、本人、家族へ説明を行い、希望される場合は、同意書をいただき、ケアの提供を行っている。今までに、2名の看取りを掛かりつけ医との連携の下、ホームで行っている。	看取りの基本方針が定められ、本人、家族へ説明しているが、もう少し詳細にホームとしてできること、できないことを文書にして提示することで、より理解が深くなると思われるので、その取組に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、基本マニュアルは作成している。 ・研修や講習会へは、全職員が参加出来るように取り組み、内容報告は、合同カンファレンスで報告している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災や災害時訓練を年2回実施(消防署職員の指導の下で)。 ・災害時は、消防署との直通連絡が出来る。 ・地域住民の協力体制もできており、避難経路の地図を作製し、常に確認できるようにしている。	年2回の防災訓練を実施し、必ず消防署の立ち合いで行うなど、適切に行っている。近隣へは、ホームの説明を行い、非常時に応援をしてもらえるよう戸別に訪問を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりにあった言葉かけを行い、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。		個々の利用者の性格や特徴により、それぞれに合った声掛けを行っている。調査時も、すべての職員がゆっくりと丁寧に利用者に語りかけていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・時間に余裕がある時は、出来る限り寄り添うように努め、本人の思いや希望を引き出せるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・各々のプランに添えるように支援しているが、午前中は、職員や利用者同士の交流を図る為、ホールに集まって頂き、午後は各々のペースで自由に過ごして頂き、DVDを観たり、音楽を聴いて頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・行事の参加や外出の際には、本人の希望を取り入れつつ、日常とは違ったおしゃれができるよう支援している。 ・日常でも、その人らしい身だしなみができるよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・可能な限り、一人ひとりの好みを取り入れられるようなメニューを考え、食材の下ごしらえや食後の片付けなども、各々の力を生かした方法で手伝って頂いている。 ・食事は共に摂っている。		職員が、一緒に同じ物を食べている。調理の一部や配ぜん、片づけを役割として手伝う利用者もおり、和やかな食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養バランスに配慮し、偏った献立にならないように努めている。 ・食事の摂取量は、全利用者分を毎回記録し、水分に関しても、必要と思われる方にはチェック、記録を行い、十分に確保できるよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、一人ひとりの必要に応じて、口腔ケアの声かけや介助を行い、清潔保持に努めている。 ・義歯の消毒も、夜間で定期的に行っている（月2回）。			

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・各々の排泄パターンを把握し、排泄意識を持つような声掛けを行い、定期的にトイレ誘導をする事で、自立に向けた支援を行っている。 ・夜間にオムツ使用の方も、日中はリハビリパンツで、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄つパターンを把握し、定期的な誘導を行っている。できる限りオムツの使用は控えるよう、日中はリハビリパンツで、トイレを使用する利用者や入居時はオムツであったが、誘導等により尿パットに変わった利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘がちな利用者の方には、水分補給を多めに行ったり、おやつ時に繊維物を提供したり、また、かかりつけ医への緩下剤の処方をお願いしたり等の対応をしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は一日置きに午後一人ずつ行っている。 ・現在、自身の希望を訴えられる方はおられないが、業務上、希望やタイミングに合わせての入浴は難しい。	1日おきの入浴を行っているが、夏場は利用者の状態により、シャワー浴を随時行うなどの取組も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・昼夜のリズムを作る為に、午前中はリハビリやレクリエーション、行事参加への声かけを行っている。 ・午後は自由に過ごして頂きつつも、入浴を楽しんで頂いたり、天気の良い日は、希望されれば散歩に出かけたりしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・各々の服薬表はカルテに綴じてあり、処方の変更や中止といった情報も、常に職員間で共有し、症状の変化の確認に努めている。 ・その人にあった服薬支援を行い、確実に飲まれたかの確認をその都度行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・その人に合った役割を考え、プランの中に取り入れ、日々の生活に楽しみや生きがいを感じて頂けるよう支援している。 ・雑誌の提供、書写、散歩、折り紙等。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日には、外気浴として近隣の散歩にでかけている。 ・ご家族が、協力的に外出して下さる方もおり、本人も喜ばれている。 ・定期的なドライブや買い物、散髪なども支援している。	天気の良い日には、ホーム敷地や外への散歩、ドライブでの外出支援を行っている。また、家族の支援の下、個別に外出をされる利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	A棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的に、一人ひとりに所持して頂くのは難しい。</li> <li>・紅葉狩りやドライブの際には、500円程度の買い物をして頂くようにしている。</li> </ul>			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話は、希望があればいつでも対応できるようにしている。</li> <li>・手紙に関しては、希望される方はおられない。</li> </ul>			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホールは、居心地良く過ごしていただけるように、ソファやテーブルの配置を考え、また、飾りつけを季節に応じて行い、温かい雰囲気作りを努めている。</li> <li>・時にはTVを消して、昔の歌や民謡のCDを流し、居心地良く過ごせる工夫をしている</li> </ul>		利用者が居心地よく過ごせるよう、ソファやテーブルなどの配置も考慮している。飾りつけも過剰ではなく、季節感を取り入れたものとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気の合った利用者同士で過ごせるような自席の配置を行ったり、長ソファや畳みの間で自由に過ごして頂くような工夫、声かけを行っている。</li> </ul>			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご家族の写真を飾られたり、馴染みの家具を持ち込まれている方もおられれば、好みに合ったシンプルな居室の方もおられ、各々が居心地良く過ごして頂くよう工夫している。</li> </ul>			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要所々に手摺の設置、夜間のセンサー式照明、床はバリアフリーとなっている。</li> <li>・トイレ、各居室には、分かりやすい目印や張り紙を表示している。</li> </ul>			